5-B-7

子育て支援を活動分野とするサービスラーニングの特徴と課題に関する文献検討

紀ノ岡浩美[1)]　尾﨑優子[1)]

近年、高等教育機関におけるサービスラーニング（以下 SL）は、地域貢献活動に学生が参加することが、学生の人間的・社会的な成長に寄与する点において注目されている。

本学は、創立当時より地域との連携を重視し、学生たちは、これまで多様な地域活動にボランティアとして参加してきた。特に最近では、地域を活動の場とした子育て支援に力を注いでおり、本年度には「子育て総合支援施設 KIT」の創設もあり、更なる地域貢献活動の展開が期待されていると同時に、学生たちの活動への参加もみられるようになっている。しかし、現段階ではボランティア活動と学習の間に意図的・明示的な関連が十分に形成されているとはいいがたく、ボランティア活動を学習として位置づける点においては、様々な課題を有しているのが現状である。

そこで、本研究は、「子育て支援」をテーマに展開する SL の特徴と課題を明らかにすることを目的とし、国内文献ならびに SL の発祥であり先行文献が豊富にあると思われる米国の文献を対象として文献検討を行う。こうした SL が学生にどのような教育的効果をうみだすのか、また、地域にとってどのような意義があるのか等、研究ならびに実践上の諸論点を整理したい。現在は、対象文献を抽出し、その傾向を把握する初段階にある。今後、抽出文献を分類するための枠組みを検討し、内容分析を進めていく計画である。

1）保健科学部看護学科